

おきなわ移住の輪



ハイライト

- 第 2 回移住受入協議会の第 2 部に変更があります！
- 県の考える「地域の中間支援組織」のイメージ説明とその可能性
- 移住取組と合わせて、久米島町が新たに活動を広げた「関係人口」増加の為の取組とは？

目次

- 平成 30 年度第 2 回沖縄県移住受入協議会開催迫る！…1
- 移住定住施策と、より暮らしやすい島づくり。
久米島町の新たな取組が始まっています！
…2

平成 30 年度第 2 回沖縄県移住受入協議会開催迫る！ 第 2 部ワークショップ内容に変更がありました！

平成 30 年 11 月 16 日(金)に開催します、第 2 回沖縄県移住受入協議会につきまして、より多くの会員のご参加の呼びかけと、内容変更のお知らせをさせていただきます。

県は、地域を中心に置いた移住促進を強化するために、①地域と市町村をつなぐ”中間支援組織”の重要性和、②交流人口・関係人口の増加と人手不足解消のニーズを叶えることの 2 点に注目して、今後の移住施策に新たなプログラムを追加します。

1 つ目の中間支援組織は、”地域づくり”において、市町村とは別に第三者の立場として地域の中に入って活動できる存在として、その有益性は広く認識されていることと思います。県内には、自治会や青年会、観光協会、NPO、地域づくり協議会、イベント実行委員会等が存在し、市町村と連携を取りながら、”地域づくり”活動を各地で行っています。市町村と地域の中間で活躍する、そのような既存団体に、キャパシティ(受容力)に合った移住取組を市町村が委託することで、地域の状況に合った移住促進を効果的に行えるのではないかと考えています。市町村のメリットとしては、人事異動によって分断されがちなノウハウの継承や、マンパワー不足の解消が期待されると共に、移住希望者側としては、移住担当者が変わらないことで、信頼関係が築きやすいことや、移住後も移住担当者が地域にいるため引き続き相談しやすいことなどがあげられます。

更に、将来的には移住だけでなく、観光、コミュニティビジネス、小さな拠点運営などの総合的な中間支援機能(地域運営組織)の役割も期待しています。このような考えをベースにして、県では来年度「中間支援組織養成講座」を実施することとなりました。次回協議会のワークショップでは、この中間支援組織にフォーカスを当て、市町村担当者の方に、移住も含めた”地域づくり”を地域と一緒に進められるような、又は将来的にそのようになりうる団体の掘り起こしや育成までを検討できるワークショップを行います。市町村におきましては、県の来年度移住施策プログラムを活用する上で、有益な機会となると思いますので、積極的にご参加ください。

2 つ目の、地域における交流人口・関係人口の増加と人手不足解消を補えるプログラムとして、導入予定なのが、「ふるさとワーキングホリデー」です。同事業は、都市に暮らす若者が、一定期間地方に滞在し、働いて収入を得ながら地域との交流等を通じて、地域での暮らしを体感するものとなっており、交流人口(単なる観光客)から定住人口(移住)につなぐ中間階層として関係人口の創出と将来的な移住・定住を促すものとなっています。実施する市町村には、地域の交流人口・関係人口を増やすと共に、限られた期間に必要な労働力の確保に充てられるという複数のメリットがあります。ふるさとワーキングホリデーについても、実施概要と、その有益性について、本協議会で説明致します。当日のご参加をお待ちしております。

今後の予定

【第 2 回移住受入協議会】

- 2018 年 11 月 16 日(金)
(沖縄県自治研修所 3 階
302、303 研修室)

【移住フェア】

- 2019 年 1 月 20 日(日)
JOIN 移住フェア(東京)
- 【沖縄移住相談会(県主催)】
- 11 月 10 日(土)
- 2019 年 1 月 19 日(土)(東京)

【地域の世話役養成塾】

- 第 4 回 2 月実施予定
北部・南部合同で実施
- 【移住体験ツアー】
- 多良間村 観光リポーター向け
ツアー 11 月 2 日～5 日実施

また、第 2 部では、今年度ふるさとワーキングホリデーの実施を予定している市町村(名護市、うるま市、国頭村、竹富町)を対象に事前調整を行う予定となっていますので、該当する市町村はぜひご参加ください。

平成 30 年度第 2 回移住受入協議会 実施概要

- 日時 平成 30 年 11 月 16 日(金)
第 1 部 13:30~15:00
第 2 部 15:15~17:15
 - 場所 沖縄県自治研修所
(沖縄県那覇市西 3-11-1)
3 階 302、303 研修室
 - お問合せ先: 沖縄県企画部地域・離島課
小橋川 電話:098(866)2370
- 【第 1 部】
- ・平成 30 年度沖縄県移住定住促進事業報告について
 - ・沖縄県移住定住促進事業(平成 30 年度計画)について
 - ・中間支援組織の重要性及びふるさとワーキングホリデーについて
- 【第 2 部】
- ・ワークショップ 2 種(会場は別々の部屋です)
- ①平成 31 年度移住定住促進事業「中間支援組織養成講座」への参加にむけて
②平成 30 年度移住定住促進事業「ふるさとワーキングホリデー」事前調整

移住定住施策と、より暮らしやすい島づくり。

久米島町の新たな取組が始まっています！

移住専門の機関「島ぐらしコンシェルジュ」の設置など、独自のアイデアで移住取組、地域づくりを活発に進める久米島町。今年度も、様々な形で大きく活動の場を増やしておられます。久米島町役場企画財政課、移住・定住担当の島袋陽子さんに、現在注力している取組について寄稿頂きました。

久米島町は、平成 28 年度から「島ぐらしコンシェルジュ」を配置して移住・定住推進に取り組んでいます。移住相談の受付や、移住フェアへ出展するだけでなく、町民・行政・議会が一緒にまちづくりに取り組むプロジェクト「久米島ドリ一部チャレンジ」を立ち上げる等、“より暮らしやすい島づくり”にも取り組んでいます。

最近着目しているのが、“移住するのは難しいが、久米島のことが好きで応援したい”という「関係人口」です。日本全体で人口が減少している中、地方が移住者を奪い合うような方向で進んでいくのは良策ではありません。その地方を応援する「関係人口」ならば、無限に増やすことができるのです。久米島には、久米島郷友会や、久米島ファンクラブ等、すでにたくさんの応援者がいます。これらの方々と、どのような関係を築いていけるか、これから考えていく必要があります。

また、新たなファンの創出ということで、交流イベントを開催しています。7 月に大阪で移住フェアに参加した夜に交流会を自主開催しました。島の美味しいものを味わいつつ、久米島クイズや三線演奏等を行い、久米島ファンも久米島を知らなかった方も楽しめるイベントにしました。8 人の方が参加してくださり、彼らは「移住フェアへは参加しにくいけれど、こんな交流イベントなら楽しいです」と感想をくれました。

10 月には東京のリトルトーキョーで「人口 1 万以下の小さな社会で手ごたえを感じながら働きたい君へ」というテーマで、島ぐらしコンシェルジュと共にトークイベントを行いました。約 30 人の参加者があり、話していて印象的だったのは「どこに住むかが大切なのではなく、その地域で自分は何ができるか」に興味がある方が増えているということでした。そこに興味のある方は、他の地域に住み

ながらも一緒にプロジェクトを進めていったり、協力してもらったりという関わり方をすることができます。移住推進をする大きな目的の一つに「人材の確保」が挙げられますが、それは関係人口を増やすことでも得られることなのです。

最後に、男女の出会いの場創出を目的とする「結(むすび)の会」についてご紹介いたします。結の会は前述の「ドリ一部チャレンジ」の住民チームのひとつで、私も一住民として参加しています。狭い久米島でも、職場が違ったり、住んでいる地域が違ったりすると意外と知りあう機会がないので、こういったイベントは必要だなと感じます。これまでは島内在住の方を対象にしてきましたが、12 月には島外から女性を招待し、久米島の男性が“おもてなし”をするというイベントを企画しています。



「結の会」の様子。12 月にも実施します！

交流や関係人口というのは、移住のように成果が分かりやすいものではないので、予算が付きにくいかもしれません。しかし、移住フェアと合わせて開催したり、参加者にも費用を負担いただいたり、工夫次第で取り組めるものだと思います。人口減少が進む中で、地域外の人と繋がる必要性を皆が感じる時が必ず来るので、その日のためにできることから種を蒔いていきます。



10 月、東京のトークイベントにて島袋さん(左)と、島ぐらしコンシェルジュの石坂さん(中央)。一緒に登壇した NPO 法人 SOMA の大辻さんと共に



7 月の交流会@大阪。以前島で働いていた友人の料理店を会場として利用しました。



10 月、東京にてトークイベントの様子